

土 浦 市 建 設 工 事 特 記 仕 様 書

建設部道路建設課

(総則)

第1条 本特記仕様書は、「07道建生工第10号及びR7国補公下第1号市道沖宿36号線改良工事」に適用する。

2 本特記仕様書は、茨城県土木部・企業局土木工事共通仕様書(以下、「共通仕様書」という。)を補完する。

(工期)

第2条 工期は、契約日の翌日から令和8年3月30日までとする。

なお、上記工期には雨天や休日等を見込んでおり、休日等には土曜日、日曜日、祝日、GW休暇及び夏季休暇を含んでいる。

ただし、次年度へ繰越承認後延長するものとする。(予定工事期間200日)

(工事数量)

第3条 工事数量は、別紙「工事数量総括(内訳)表」のとおりとする。

(工程関係)

第4条 本工事の作業時間帯は、下表のとおりとすること。なお、作業時間帯の変更を要する場合には、速やかに監督員と協議すること。

工 種	作業時間帯	期 間
全工種	作業開始 9時 00分 作業終了 17時 00分	工事完成まで

(建設資材)

第5条 使用する材料について、共通仕様書に定める条件を満たすものが、県産材で確保できる場合には、その優先使用に努めること。なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、または加工し製品化されたもの」をいう。

(工事支障物件等)

第6条 工事区間内に、占有している地下管路等がある場合は、現場での施工に先立ち、資料調査や試掘等を行い、その位置を確認したうえ注意して施工すること。

(建設機械)

第7条 使用機械のうち、指定しているものについては、排出ガス対策型の基準値以上のものを使用すること。

2 排出ガス対策型機械の調達が困難な場合は、監督員と協議すること。なお、排出ガス対策型機械を使用しないこととなった場合、契約変更の対象となることがある。

(過積載の防止)

第8条 本工事の施工にあたっては、次の事項を遵守すること。

(1) 積載重量制限を超過して工事用資材等を積み込まず、また積み込ませないこと。

(2) 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。

(3) 資材等の過積載を防止するため、建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって

は、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

- (4) さし枠装着車、物品積載装置の不正改造をしたダンプカー及び不正表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。また、これらの車両を工事現場に出入りさせないこと。
- (5) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長するような行為をしないこと。
- (6) 取引関係のあるダンプカー事業者が不正行為(過積載、さし枠装着車や不正表示車等の使用)を行っている場合には、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
- (7) 下請契約の相手方や資材納入業者の選定にあたっては、交通安全に対する配慮に欠ける者やダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させた者を排除すること。

(地元地区との調整)

第9条 工事の施工にあたっては、監督員と調整のうえ地元地区・近隣住民等に十分周知した上で着手すること。

(交通誘導員の配置)

第10条 工事の施工にあたっては、交通誘導員を配置し、一般交通等に支障のないよう十分注意して施工すること。なお、交通誘導員は警備業者の交通誘導業務に従事する警備員とすること。

(発生土の処理)

第11条 本工事における発生土については、下記により搬出すること。

- (1) 搬出先は、(財)茨城県建設技術管理センター(以下「管理センター」という。)が管理する下妻ストックヤードとし、片道運搬距離は32.9kmとする。
- (2) 工事着手前に、ストックヤードの利用申込みを管理センターに対して行うこと。
- (3) 事前にストックヤードに搬出する土砂の土質試料を採取し、必要な試験を行うとともに、その結果を管理センターへ提出すること。
- (4) 搬出する10日以上前に、管理センターと運搬経路、工程等について打ち合わせを行うこと。
- (5) スtockヤード利用料金は、設計地山土量1m³当たり1,400円(消費税抜き)とし、管理センターの請求により支払うこと。
- (6) このほかストックヤード利用の詳細については管理センターと協議のこと。

(土質改良土)

第12条 土質改良土を使用する場合は、現場より発生する建設発生土を改良土プラントへ搬出し、土質改良を行ったうえ、土質改良土として埋め戻しに使用すること。余剰建設発生土については、第11条によること。
なお、土質改良土の品質基準は、「土浦市土質改良土の使用に関する取扱要綱」によること。

(建設副産物実態調査)

第13条 建設副産物実態調査(センサス)の対象となる建設副産物の品目については、「建設副産物情報交換システム「COBRIS」(コブリス)」によりデータを登録すること。

登録後、紙媒体で1部提出すること。なお、オンラインでのデータ登録による調査票は、茨城県土木部・企業局土木工事共通仕様書第1編第1章総則1-1-1-18建設副産物第7項に基づく再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の提出に代わるものとする。

(建設リサイクル法に係る積算条件明示)

第14条 本工事は建設リサイクル法の対象工事である。本工事における分別解体・再資源化等については、下記の積算条件を設定している。なお、この条件は、契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであり、確認した内容が別の方法となった場合でも、契約変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情や、請負者の責によるものでない事項により、予定した条件によりがたい場合には、監督員と協議するものとする。

(1) 分別解体等の方法

工 程	作 業 内 容	分別解体等の方法 (※1)
①仮設	仮設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
②土工	土工事 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input checked="" type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
③基礎	基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
④本体構造	本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input checked="" type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
⑤本体付属品	本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input checked="" type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
⑥その他 ()	その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

※1 該当がない場合は記載の必要はない。

(2) 再資源化をする施設の名称及び所在地(※2)

特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所 在 地
コンクリート塊	(株)やまたけ	かすみがうら市加茂5303-6
アスファルトコンクリート塊	(株)やまたけ	かすみがうら市加茂5303-6

※2 積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。

(再資源化等報告書)

第15条 分別解体・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、監督員の指示する様式を作成し、監督員に報告すること。

(再生資源利用(促進)計画書の掲示等)

第16条 再生資源利用(促進)計画書(以下、計画書)は、建設副産物情報交換システム(COBRIS(コブリス))へ入力し作成するものとし、工事現場の見やすい場所に掲示すること。

2 計画及び、実施状況の記録を工事完成後5年間保存すること。

(境界杭等の管理)

第17条 本工事の施工にあたり、境界杭等については次のとおり注意すること。

- (1) 工事箇所にある境界杭及び測量基準点については、事前に必ず確認し、民地等へ構造物等が越境しないよう十分注意すること。
- (2) 工事完成後に境界杭を設置する際は、必ず測量士の資格を有する者が行い、設置完了後、境界点図面にその者又は、請負者の証明捺印した図面を納品すること。
なお、請負者において設置が困難な場合は、請負者の費用負担で測量会社等に依頼して行うこと。
- (3) 境界杭の規格や設置方法については、監督員の指示に従うこと。

(任意仮設)

第18条 本工事に関する仮設については、受注者の責任において決定し、施工すること。

- 2 受注者は現場条件を十分把握したうえで、本仮設工の安全性、経済性、細部構造等について十分検討すること。

(電子納品の対象工事)

第19条 本工事は電子納品の対象工事であり、下記の内容を実施すること。

- (1) 工事写真を電子媒体等で納品すること。また、完成図については、受発注者間で協議し、電子納品することとなった場合には、CADデータ等を電子媒体で納品すること。
- (2) 電子納品の対象となる成果品の作成については、「茨城県電子納品ガイドライン」に基づくこと。特に、工事写真、CAD図面の作成にあたっては、それぞれ「デジタル写真管理情報基準(案)」、「CAD製図基準(案)」に基づくこと。
- (3) 電子納品対象成果品の提出部数については、電子媒体(CD-R)2部及び紙媒体1部とする。
- (4) 受注者は、電子納品に必要なソフト環境の整備を行うこと。
- (5) その他、電子納品に関する詳細な取り扱い等については、受発注者協議のうえ、発注者の指示に従うこととする。

(コリンズ(CORINS)への登録)

第20条 本工事は、コリンズの登録対象工事であるので、工事实績情報サービス(CORINS)への登録を行うこと。また、登録内容確認書を監督員に提出すること。

(創意工夫等に関する実施状況)

第21条 受注者は、本工事において実施した「高度技術」及び自主的に実施した「創意工夫」、「社会性」に関する状況を提出できるものとする。

- 2 発注者は、受注者からの提出のあった創意工夫等に関する実施状況の内容を検討し、評価すべき内容であれば、工事成績評定にてこれを考慮する。

(労働安全衛生法等の遵守)

第22条 受注者は、共通仕様書1-1-1-34に基づき、労働安全衛生法等関係法令を遵守し、特に次の事項に留意すること。

- (1) 受注者は、高所作業における作業床、囲い、二段手すり、幅木、防網の設置、作業員の安全帯の使用、悪天候時の作業禁止、照度の保持、踏み抜きの防止、不用のたて杭等における危険の防止、昇降設備の設置、墜落危険箇所の立入禁止等により、

墜落・転落災害の防止措置を講じること。

- (2) 受注者は、建設機械による作業に先立ち、当該建設機械の転落、地山の崩壊等による作業員の危険を防止するため、地形や地質の状況等を調査し、作業計画を定めてから作業を行うこと。また、作業中は、機械の制限速度、転落・接触等の防止、誘導者の合図、運転者が運転位置から離れるときの措置、機械の移送、搭乗・使用の制限、修理等について、関係法令を遵守すること。
 - (3) 受注者は、地山の掘削作業に先立ち、地山の崩壊や埋設物の損壊等により危険を及ぼすおそれのあるときは、作業箇所及び周辺の地山について調査し、掘削の時期及び順序を定めて作業を行うこと。また、土砂崩壊災害の防止等のため、手掘り掘削における掘削面の勾配や土止め支保工、防護網の設置、作業員の立入禁止、埋設物等による危険の防止、掘削機械等の使用制限、誘導者の配置、保護帽の着用、照度の保持等について、関係法令を遵守すること。
 - (4) 受注者は、建設機械の操作や玉掛け作業を、法令で定める免許を有する者、または技能講習や特別教育修了者に行わせること。
 - (5) 受注者は、掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業を行う場合、地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習を終了した者のうちから、地山の掘削作業主任者を選任しなければならない。
 - (6) 受注者は、土止め支保工の切り梁、腹起こしの取り付け、取り外し作業を行う場合、地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習を修了した者のうちから、土止め支保工作業主任者を選任しなければならない。
- 2 受注者は、監督員より作業員の免許等の提示を求められたときは、協力すること。

(法定外の労災保険の付保)

第23条 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

(低入札価格調査制度の対象工事)

第24条 本工事は、低入札価格調査制度の適用対象工事である。

- 1 低入札価格調査制度の調査対象者となった場合には、入札した価格で契約内容が履行可能であることを、発注者に対して合理的に説明しなければならない。なお、合理的な説明がない場合には、履行不能と判断し、失格とする。
- 2 低入札価格調査制度の調査対象者は、発注者の求めに応じ、低入札価格調査に係る資料を作成し、提出しなければならない。
- 3 低入札価格調査制度の調査対象者は、発注者から低入札価格調査に係るヒアリングを求められた場合には、これに応じなければならない。
- 4 低入札価格調査の結果、落札することとなった者は、確実な業務履行、調査内容に整合した工事の施工を確約する確約書を、発注者に対し、契約時に提出しなければならない。
- 5 低入札価格調査を経て契約した受注者は、調査内容と実際の施工との整合性を発注者が確認する際に、これに協力しなければならない。なお、調査時に提出した下請予定者と実際の下受注者が異なる場合には、発注者の指示する様式により理由書を提出しなければならない。
- 6 低入札価格調査を経て契約した受注者は、施工体制台帳、下受注者通知書、施工計画書の提出に際し、発注者から、その内容の詳細についてヒアリングを求められた場合には、これに応じなければならない。
- 7 低入札価格調査を経て契約した受注者は、監督員が監督業務を行う際、主任技術者または監理技術者を立ち合わせなければならない。なお、低入札価格調査を経て

契約となった工事については、発注者による重点的な監督業務や厳格な検査が実施されることから、同種同規模程度の工事に比べ、監督や検査の頻度が増える等の措置が行われることとなる。

- 8 低入札価格調査を経て契約した受注者が第6項、第7項に基づく確認作業に協力しない場合や、確認の際に虚偽の説明をした場合、または低入札価格調査時の説明内容と実施状況が大きく乖離している場合等には、契約違反等として指名停止等の措置を行うことがある。

(総合評価方式の対象工事)

第25条 本工事は、総合評価方式の対象工事とする。

- 1 本工事に関する若手技術者の配置計画が適正と認められ評価された場合、受注者は技術資料に基づいて従業員を本工事に配置しなければならない。
- 2 発注者は、工事の監督、検査にあたって、受注者の配置計画に基づく若手技術者の従事状況を確認するものとし、受注者は必要な資料を作成し、発注者に提出しなければならない。また発注者から若手技術者の従事状況の立会を求められた場合には、これに応じなければならない。
- 3 発注者は、工事の監督、検査にあたって、受注者の新規雇用者の従事状況を確認するものとし、受注者は必要な資料を作成し、発注者に提出しなければならない。
また、発注者から雇用者の従事状況の立会を求められた場合には、受注者はこれに応じなければならない。
- 4 発注者は、工事の監督、検査にあたって、受注者の配置予定技術者の保有資格に基づく従事状況を確認するものとし、受注者は必要な資料を作成し、発注者に提出しなければならない。また、発注者から配置予定技術者の従事状況の立会を求められた場合には、受注者はこれに応じなければならない。
- 5 受注者の責により技術資料どおりの履行が為されなかった場合は、工事成績評点を減ずる措置を行う。
- 6 技術資料に対する履行状況が、特に悪質と認められる場合等は、指名停止措置や損害賠償の請求を行うことがある。

(週休2日制での施工について)

第26条 本工事は、「週休2日制促進工事」(以下、本条において「週休2日制促進工事」という。)であり、「茨城県土木部が発注する週休2日制促進工事の実施要領」(以下、本条において「要領」という。)第5条第1項(1)に規定する発注者指定型を適用する。

- 2 受注者は、要領第2条に規定する週休2日制での施工にあたり、要領第6条に基づき、予め実施工程を立て、工事着手までに監督員と協議すること。なお、完全週休2日制の場合は、年末年始休暇及び夏季休暇を従前通り確保したうえで、全ての土曜日及び日曜日を現場閉所日とし、4週8休制の場合は、月単位で28.5%(2/7)以上の日数を現場閉所日とすること。((2/7未満または2/7を超えた現場閉所日は設定しないこと。))また、実施工程を定めた結果、契約工期内に工事を完成できないことが判明した場合、受注者は、工事請負契約第18条、第21条及び第23条の規定による工期の延長変更を請求することができる。
- 3 受注者の都合により要領第6条に基づき設定した現場閉所日に工事等を行おうとする場合、受注者は、事前に監督員と協議のうえ振替現場閉所日を設定すること。完全週休2日制の場合は、振替現場閉所日は同一週内において設けることを原則とするが、土曜日の振替現場閉所日は翌週内に設けることも可とする。なお、ここで

いう「週」については、日曜日から始まり土曜日で終わる一連の7日間の単位として取扱うこととする。4週8休制の場合は、現場閉所日と同じ月単位の範囲内で設けることを原則とするが、月単位の最終週にあっては、翌月の第一週内に設けることも可とする。

- 4 受注者は、週休2日制による施工について、下請業者等の理解を得たうえで実施することとし、要領第8条に基づき作成した関係者確認書の写しを工事着手日までに監督員に提出すること。
- 5 受注者は、週休2日制で施工することについて、土木工事保安対策技術指針に基づき設置する標示板（工事中看板）及び工事説明看板において標示すること。なお、この標示に要する費用については、設計変更の対象外とする。
- 6 受注者は、適宜、次の各号に掲げる書類等を監督員に対し提示し、現場閉所の実績について確認を受けること（工事完成通知書の提出までに、全ての確認を受けること）。
 - (1) 工事現場の労働者の勤務状況がわかる書類（月間・週間工程表、作業日報等）
 - (2) 下請業者等の労働者については、当該工事における当該下請業者の作業期間及び内容等がわかる書類（作業日報等）
 - (3) 月単位で現場閉所日の割合が把握できる書類（4週8休制のみ、(1)、(2)に基づき現場閉所日を集計した資料等）
- 7 本工事においては、予定価格の算定にあたり、労務費に1.05、機械経費（賃料）に1.04、市場単価方式による積算に「週休2日制促進工事における経費補正等基準（一般土木工事編）」（公表）に示す補正係数、共通仮設費率に1.04、現場管理費率に1.06の補正係数を乗じているが、週休2日制での施工を達成できなかった場合は、当該補正を解除（設計変更減）し、現場閉所日確保率に応じて決定する。なお、詳細については「週休2日制促進工事における経費補正等基準（一般土木工事編）」（公表）による。
- 8 工事成績評価においては、休暇の拡大に向けた取組について評価する。

（疑義）

第27条 本工事の施工及び設計図書等に疑義が生じた場合には、監督員と協議のうえ、その指示に従うこと。

土浦市土質改良土の使用に関する取扱要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、土浦市（以下「市」という。）が発注する建設工事（以下「工事」という。）を受注した業者（以下「施工者」という。）が、工事の施工に伴い発生する建設発生土（以下「発生土」という。）に土質改良を加え、土質改良土（以下「改良土」という。）として再生利用する場合に、必要な事項を定めるものとする。

(改良土の用途)

第2条 市は、改良土を埋戻材、盛土材、路床材等全ての用途で使用できるものとする。

(市が使用する改良土)

第3条 市が使用する改良土は、定置式又は移動式改良土プラントで製造されものでなければならない。

(原料土)

第4条 改良土の原料土は、改良土プラントに搬入された発生土とする。

2 改良土プラントで使用する原料土は、第4種建設発生土以上であって、木片、金属類、布、プラスチック、廃棄物その他の異物及びコンクリート塊、アスファルトコンクリート塊等のガラを含まないものとする。

3 市は、原料土について、必要があると認めるときは、施工者に指示し、地山状態でコーン指数を測定し、確認するものとする。

(改良土の品質)

第5条 市が使用する改良土は、第2種改良土以上であって、次の条件を満たすものとする。

(1) 改良土の生産過程において使用する固化材は、生石灰、石灰系改良材、セメント系改良材等の中から、対象土質等に応じたものが選定されていること。また、固化材の選定及びその使用量の決定を適正に行うため、事前に品質試験として、土質試験や配合試験が実施されていること。

(2) 最大粒径は、40mm以下であること。

(3) 砂分と礫分との量の比率については、砂分の方が高くなければならない。

(4) CBRは、12%以上であること。

2 前項第1号の品質試験は、別表の試験項目及び試験方法により実施しなければならない。

(平20・一部改正)

(使用前の確認事項)

第6条 施工者は、改良土を使用するときは、あらかじめ、改良土プラントで、別表に基づき実施した改良土の品質試験結果を、市に提出し、その承認を得なければならない。

2 生石灰を固化材として使用した改良土は、養生期間が1週間以上で発熱反応が終了したことを確認した後を使用するものとする。

(平20・一部改正)

(改良土の保管方法)

第7条 施工者は、改良土を仮置きする場合は、水はけの良い高台に保管し、シート等で雨水に触れないように、覆わなければならない。

(改良土の施工方法)

第8条 改良土を使用して行う施工方法は、山砂を使用して行う工事の施工方法に準じること。ただし、施工者は、次に定める事項に注意を払わなければならない。

- (1) 湧水がある場所で改良土を使用する場合は、湧水を排除した後に使用すること。
- (2) 降雨が激しい場合には、改良土の埋め戻し並びに転圧を行わないこと。
- (3) 改良土の水締めは、行わないこと。
- (4) 管渠等の埋め戻し等に使用する場合は、管上30cmまでは、最大粒径20mm以下の改良土で、埋め戻しを行うこと。

(雑則)

第9条 この要綱による品質試験に要する費用は、改良土プラントを設置する者及び施工者の負担とする。

2 この要綱に定めるもののほか、改良土の使用に関し必要な事項については、市の監督職員の指示に従うこと。

(平20・繰上)

付 則

この要綱は、平成16年7月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成20年7月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成28年6月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年8月28日から施行する。

付 則

この要綱は、平成31年5月1日から施行する。

別表 改良土の品質管理基準
(平20・一部改正)

試験項目	規格値	試験方法	試験基準
土の粒度試験	最大粒径 40mm以下 (注)	土の粒度試験方法（ふるい分けのみ） JSF T 131 JIS A 1204	1 1週間に付き1回以上。ただし、500m ³ を超えるときは500m ³ につき1回の自主検査を行う。 2 公的機関での検査は、3ヶ月を超えない範囲で1回以上行う。
	砂分≧礫分		
CBR試験	CBR 12%以上	CBR試験方法 (3層67回) JSF T 721 JIS A 1211 舗装試験法便覧 1-4-1	

- * JSF：土質工学会基準
- * 細粒分：75μm未満の構成成分の含有率
- * 砂分：75μm以上2mm未満の構成成分の含有率
- * 礫分：2mm以上の構成成分の含有率

注 最大粒径は20mm以下とすることができる。
改良土を路床安定処理土として使用する場合は、CBRを30%以上とする。